

令和 4 年度
全国学力・学習状況調査結果
～概要と課題、そして改善に向けて～

令和5年1月
稚内市教育委員会

目次

1	調査の概要	1
2	調査結果	3
	(1) 学力調査(調査問題)	3
	① 小学校国語	3
	② 小学校算数	6
	③ 小学校理科	11
	④ 中学校国語	15
	⑤ 中学校数学	18
	⑥ 中学校理科	23
	(2) 学習状況調査(質問紙調査)	28
	(3) 質問紙調査票の項目と正答率との関係	34
	(4) 学校調査(質問紙調査)	35
3	小中学校の状況及び学力向上策	41

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- ① 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することにより、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 各教育委員会や学校等が、全国的な状況との関係において、教育及び教育施策の成果と課題を把握・分析し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ③ 各学校が、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

(2) 調査の対象とする児童生徒

原則として、稚内市立学校の以下の学年の全児童生徒を対象に実施した。

【小学校調査】 小学校第6学年

【中学校調査】 中学校第3学年

(3) 調査事項及び手法

① 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

- ・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※上記を一体的に問う。

② 質問紙調査

[児童生徒に対する調査]

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

[学校に対する調査]

指導方法等に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

(4) 調査日時・回答児童生徒数

令和4年4月19日（火）

【小学校調査】

1 時限目	2 時限目	3 時限目	
193 名	192 名	191 名	190 名
国語 (45 分)	算数 (45 分)	理科 (45 分)	児童質問紙

【中学校調査】

1 時限目	2 時限目	3 時限目	
195 名	197 名	196 名	200 名
国語 (50 分)	数学 (50 分)	理科 (50 分)	生徒質問紙

(5) 留意事項

本調査は、幅広く児童生徒の学力や学習状況を把握することを目的として実施しておりますが、実施教科が特定の教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことから、本調査の結果については、児童生徒が身につけるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要です。

本調査の結果については、個々の設問や領域等に着目して学習指導上の課題を把握・分析し、児童生徒一人ひとりの学習改善や学習意欲の向上につなげることが重要です。

調査結果の分析については、本市の正答率によって、次のとおり整理しています。

正答率 80%以上	★★★★★
60%以上 80%未満	★★★
50%以上 60%未満	★★
50%未満	★

また、全国の正答率に加え、さらに本市との比較を次のとおり標記しています。

全国の正答率に対し、

5ポイントを超えて低い	▼▼	(下回っている)
5ポイント以内のマイナス	▼	(ほぼ同程度ーやや下回っている)
5ポイント以内のプラス	△	(ほぼ同程度ーやや上回っている)
5ポイントを超えて高い	△△	(上回っている)

質問紙調査では、「している」「どちらかといえばしている」と回答した児童生徒の割合が80%を超えたものを「高い傾向」、60%未満のものを「低い傾向」と分類しています。

令和4年度全国学力・学習状況調査の調査問題と質問調査の内容は、国立教育政策研究所のホームページに掲載されています。

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

2 調査結果

(1) 学力調査（調査問題）

① 小学校国語

【学習指導要領の領域別集計結果】

区 分	正答率 (%)		
	稚内市	全国	全国との比較
言語事項	★★★	73.5	△
話すこと・聞くこと	★★★	66.2	▼
書くこと	★	48.5	▽
読むこと	★★★	66.6	▼

【設問別集計結果】

設問 番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率 (%)		
			稚内市	全国	全国との比較
1一	【話し合いの様子の一部】における谷原さんの発言の理由として適切なものを選択する	話し言葉と書き言葉との違いを理解する	★★★★	85.5	▼
1二	【話し合いの様子の一部】における谷原さんや中村さんの発言の理由として適切なものを選択する	言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える	★★★	68.8	▼
1三	【話し合いの様子の一部】で、中村さんが前田さんに質問し、知りたかったことの説明として適切なものを選択する	必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容の中心を捉える	★★★★	84.7	▼
1四	「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、□でどのように話すかを書く	互いの立場や意図を明確にしながらかつ画的に話し合い、自分の考えをまとめる	★	47.7	▼
2一 (1)	「ぼく」の気持ちの説明として適切なものを選択する	登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える	★★★	67.6	▼▼
2一 (2)	「老人」が未来の「ぼく」だと考えられるところとして適切なものを選択する	登場人物の相互関係について、描写を基に捉える	★★★	68.4	▼
2二	物語から伝わってくることを考え、【森田さんの文章】の[A]に入る内容を書く	人物像や物語の全体像を具体的に想像する	★★	68.3	▼▼
2三	【山村さんの文章】の[B]に入る内容として適切なものを選択する	表現の効果を考える	★★★	59.2	△
3一	【文章2】の□の部分、どのようなことに気を付けて書いたのか、適切なものを選択する	文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える	★★★	59.1	△△

設問 番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率 (%)		
			稚内市	全国	全国との比較
3二	【伝え合いの様子の一部】を基に、 【文章2】のよさを書く	文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける	★	37.7	▼▼
3三 (1) ア	【文章2】の中の____部アを、 漢字を使って書き直す(ろくが)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	★★★	65.2	△
3三 (1) ウ	【文章2】の中の____部イを、 漢字を使って書き直す(はんせい)		★★	58.7	▼
3三 (1) エ	【文章2】の中の____部ウを、 漢字を使って書き直す(したしむ)		★★★	67.1	△
3四	(一)から(二)に書き直した際、 気を付けた内容として適切なもの を選択する	漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く	★★★	77.1	△

【下位層の割合】

区 分	正答数	全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合(%)			
		稚内市	全国	全国との比較	
平成29年度	A(知識)	15問中9問以下	22.5	21.3	1.2
	B(活用)	9問中3問以下	27.2	23.2	4.0
平成30年度	A(知識)	12問中6問以下	27.9	22.0	5.9
	B(活用)	8問中2問以下	24.8	18.6	6.2
平成31年度		14問中6問以下	29.8	23.5	6.3
令和2年度		中止	—	—	—
令和3年度		14問中7問以下	35.8	29.0	6.8
令和4年度		14問中7問以下	29.5	28.3	1.2

【全国平均を超えた設問の趣旨】

- 表現の効果を考える
- 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う(3問中2問)
- 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く

【課題と改善点】

「ぼく」の気持ちの説明として適切なものを選択する

【第3学年及び第4学年】思考力、判断力、表現力等 C 読むこと 構造と内容の把握

イ.登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。

- 本設問の正答率は、61.1%であった。登場人物の気持ちとして適切なものを二つ選択する問題であるが、「本物の宇宙船を作ることへのあこがれ」か「模型の宇宙船を見た感動」のどちらかしか捉えられなかった児童が35.2%であった。登場人物の行動や気持ちについて、物語全体を通して、複数の叙述を基に捉えることに課題がある。

《学習指導にあたって》

登場人物の行動や気持ちを考えることが必要となる言語活動を設定し、物語全体を見通して、叙述を基に行動や気持ちを捉えることができるように指導することが大切である。その際に、「どこからそう思ったのか」など、考えの根拠とした「行動や会話、地の文」などの叙述を明らかにすることを指導すると効果的である。

物語から伝わってくることを考え、【森田さんの文章】のAに入る内容を書く

【第5学年及び第6学年】 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと 精査・解釈

エ.人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。

- 本設問の正答率は59.1%であった。また、無回答が18.7%と非常に高かった。「ぼく」と「老人」の相互関係や「ぼく」の人物像などから物語の全体像を具体的に想像することや、この物語から伝わってくることを条件に応じてまとめることができなかつたと考えられる。

《学習指導にあたって》

着目した叙述を複数取り上げ、そこから考えられることをノートやワークシートにまとめたり、考えたことを交流したりすることで物語の全体像を明確にするのが効果的である。

また、文字数制限などの条件に応じて書くことに課題がみられることから、振り返りの際に条件を提示して書かせるなど日常的な工夫と積み重ねが必要である。

【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを書く

【第5学年及び第6学年】 思考力、判断力、表現力等 B 書くこと 共有

カ.文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること

- 提示された3つの条件を満たして書くことが求められた設問（記述式）であったが、正答率は30.6%であった。文章のよさを二つ見付けることはできたが、字数制限を満たして書くことができなかつた児童が0.5%、よさを一つしか見つけられなかつた児童が44%、無回答は20.7%であった。これらのことから、感想や意見の伝え合いから文章のよいところを考えること、考えた文章のよさを言葉に表すことに課題がある。

《学習指導にあたって》

互いの書いた文章を読み合い、具体的に感想や意見を伝え合うことを通して、よさを見付けたり、よさを言葉に表したりすることができるように指導することが必要である。「共有」に関する指導事項において、「文章のよいところ」とは、第1学年及び第2学年では、「内容や表現のよいところ」、第3学年及び第4学年では、「書こうとしたことの明確さ」、第5学年及び第6学年においては、「文章全体の構成や展開の明確さ」などである。

これを踏まえ、伝え合う経験を積み重ねることを通して、自分の文章のよいところを見付けたり、それを言葉で表したりすることができるように指導することが重要である。また、「書くこと」を苦手とする児童が多いと考えられることから、途中でペアやグループによる交流などにより、経験の取り上げ方や言葉の選び方や書き方の工夫のしかたなど、自分の表現に生かすことができるような気付きが生まれるよう配慮が必要である。

② 小学校算数

【学習指導要領の領域別集計結果】

区 分	正答率 (%)		
	稚内市	全国	全国との比較
数と計算	★★★	67.7	▼
図形	★★	62.5	▼
測定			
変化と関係	★	48.3	▼
データの活用	★★★	66.1	▼

【設問別集計結果】

設問 番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率 (%)		
			稚内市	全国	全国との比較
1 (1)	1050×4を計算する	被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができる	★★★★★	92.4	△
1 (2)	14と21の最小公倍数を求める	二つの数の最小公倍数を求めることができる	★★★	72.2	▼▼
1 (3)	カップケーキ7個分の値段を、1470÷3で求めることができるわけを書く	示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる	★★★	76.0	▼
1 (4)	85×21の答えが1470より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ	示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる	★	34.8	△
2 (1)	果汁が25%含まれている飲み物の量を基にしたときの、果汁の量の割合を分数で表す	百分率で表された割合を分数で表すことができる	★★★	71.1	△
2 (2)	果汁が40%含まれている飲み物の量が1000mLのときの、果汁の量を書く	百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる	★★	64.6	▼▼
2 (3)	果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ	示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している	★	21.4	△
2 (4)	果汁が30%含まれている飲み物に果汁が180mL入っているときの、飲み物の量の求め方と答えを書く	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる	★	48.0	▼▼
3 (1)	表のしりとりの欄に入る数を求める式と答えを書く	表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる	★★★	75.3	▼▼

設問 番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率 (%)		
			稚内市	全国	全国との比較
3 (3)	1年生と6年生が希望する遊びの割合を調べるためのグラフを選び、そのグラフから割合が一番大きい遊びを選ぶ	目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる	★★★	66.8	△
3 (4)	1年生の希望をよりかなえるためのポイント数の求め方と答えを書く	加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述できる	★★★	67.7	▼
4 (1)	示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す	正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる	★	48.8	▼▼
4 (2)	長方形のプログラムについて、向かい合う辺の長さを書く	図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解している	★★★★	83.2	▼
4 (3)	辺の長さや角の大きさに着目し、ひし形をかくことができるプログラムを選ぶ	図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解している	★★★	66.5	▼
4 (4)	示されたプログラムでかくことができる図形を選ぶ	示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる	★	57.6	▼▼

【下位層の割合】

区 分	正答数	全国の下位約 25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合 (%)			
		稚内市	全国	全国との比較	
平成 29 年度	A (知識)	15 問中 10 問以下	32.7	27.3	5.4
	B (活用)	11 問中 3 問以下	35.6	30.5	5.1
平成 30 年度	A (知識)	14 問中 6 問以下	32.2	24.3	7.9
	B (活用)	10 問中 2 問以下	32.3	19.6	12.7
平成 31 年度		14 問中 6 問以下	29.4	19.5	9.9
令和 2 年度		中 止	—	—	—
令和 3 年度		16 問中 9 問以下	41.7	28.7	13.0
令和 4 年度		16 問中 7 問以下	29.1	23.7	5.4

【全国平均を超えた設問の趣旨】

- 被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができる
- 示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる
- 百分率で表された割合を分数で表すことができる
- 示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している
- 目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる

【課題と改善点】

14と21の最小公倍数を求める

【第5学年】A 数と計算 (1) 整数の性質及び整数の構成 ア知識・技能 (イ) 約数・倍数
最大公約数や最小公倍数について、具体的な場面に即して取り扱うものとする。

- 本設問の正答率は、63.5%であった。公倍数や公約数、一方の数字の倍数などを解答している児童がみられた。最小公倍数の意味を理解し、二つの数の最小公倍数を求めることに課題がみられる。

《学習指導にあたって》

最小公倍数や最大公約数の意味について確実に理解し、それらを求めることができるようにすることが重要である。本設問では、ケーキの値段を比較する場面が設定されていたが、同様に日常生活の場面や算数の学習の場面など、具体的な場面に即して最小公倍数や最大公約数を求める活動になるよう留意する。その際に、二つの数の倍数や約数を具体的に挙げ、その中から、共通の数を見つけることができるようにすることが大切である。

果汁が40%含まれている飲み物の量が1000mLのときの、果汁の量を書く

【第5学年】C 変化と関係 (3) 二つの数量の関係 ア知識・技能 (イ) 百分率を用いた表し方を理解し、割合などを求める。

- 本設問の正答率は、57.8%であった。「40%」という割合の意味の理解や、基準量、比較量、割合の関係を捉え、百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることに課題がみられる。

《学習指導にあたって》

問題場面から、基準量、比較量、割合の関係を捉えられるようにすることが重要である。例えば、本設問を用いて飲み物の量と果汁の割合から果汁の量を求めたり、教科書の設問を用いてバスの定員と割合から乗車人数を求めたりする活動が考えられる。その際に、テープ図や数直線など、自分にとってわかりやすい図を書いて数量関係を捉え、その数量の関係から比較量を求める式を立てることができるようにすることが大切である。

果汁が30%含まれている飲み物に果汁が180mL入っているときの、飲み物の量の求め方と答えを書く

【第5学年】C 変化と関係 (1) 伴って変わる二つの数量 イ 思考・判断・表現 (ア) 伴って変わる二つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、表や式を用いて変化や対応の特徴を考察する。

- 本設問の正答率は、35.4%であった。二つの条件を満たして求め方を式や言葉を使って書かなければならないが、一方の条件のみの記述が少なくなかった。「比例の関係を用いて飲み物の量を求める式や言葉を記述すること」ができなかったのは10.4%、「180mlが30mlの6倍であることを求める式や言葉を記述すること」ができなかったのは16.1%、無回答は11.5%であった。伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述することに課題がみられる。

《学習指導にあたって》

伴って変わる二つの数値を見だし、一方の数量に伴って他方の数量がどのように変化するかに着目して未知の数量を求めることができるよう、表に整理して、二つの数量の関係に着目できるようにするのが大切である。本設問や教科書の設問を用いて、果汁の量が2倍、3倍、…になると、それに伴って飲み物の量も2倍、3倍、…になっているという比例の関係を捉え、

未知の数量を求めることができるようにすることが大切である。飲み物の量を変えた場合でも、飲み物の量に伴って変わるのは果汁の量であり、飲み物に含まれている果汁の割合は変わらないことを理解できるようにすることも大切であり、二つの数量から割合を求めることや、示された割合になる二つの数量を考えることができるようにすることも大切である。

表の「しりとり」の欄に入る数を求める式と答えを書く

【第3学年】D データの活用 (1) データの分析 ア知識・技能 (ア) 日時の観点や場所の観点などからデータを分類整理し、表に表したり読んだりすること。

【第4学年】A 数と計算 (6) 数量の関係を表す式 ア知識・技能 (ア) 四則の混合した式や()を用いた式について理解し、正しく計算すること。

- 本設問の正答率は、66.1%であった。答えを「6」と解答したのは合計82.3%であったことから、数量の関係を正しく式に表すことに課題がみられる。

《学習指導にあたって》

問題場面の数量の関係について、四則を混合させたり、()を用いたりして一つの式に表すことができるようにすることが重要である。表の各欄と合計欄の関係に着目し、ある項目にあたる数の求め方を式に表して計算する活動が考えられる。その際、多様な式を児童が考える事が予想されるが、それらを比べることを通して、一つの式に表すことには、数量の関係を簡潔に表すことができるなどのよさがあることが分かるようにすることが大切である。

分類整理されたデータから、全員の希望が一つは通るように、遊びを選ぶ

【第3学年】D データの活用 (1) データの分析 イ思考・判断・表現 (ア) データを整理する観点に着目し、身の回りの事象について表やグラフを用いて考察して、見出したことを表現すること。

- 本設問の正答率は、57.3%である。全員の希望が一つ通る二つ遊びのうち、一つしか捉えることができなかった児童は41.6%であった。分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え、考察することに課題が見られる。

《学習指導にあたって》

分類整理されたデータについて、目的に応じて筋道を立てて考察できるようにすることが重要である。自分の学級や学年で行うお楽しみ会や交流会での遊びなど具体的な場面を取り上げ、それらにおいて遊びを決める際に多数決の他に、より多くの人の希望が一つは通るように決める方法で、活動を決めることが考えられる。その際に、アンケート調査などにより最も多くの希望があった遊びを一つ決めて、その遊びを希望していない児童が最も多く希望しているものを調べ、選んだ遊びが一人でも多くの希望が通っているか確かめ、目的に応じて筋道を立てて考察できるようにすることが大切である。

示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す

【第3学年】B 図形 (1) 図形 ア知識・技能 (ア) 二等辺三角形、正三角形などについて知り、作図等を通して、それらの関係に着目すること。

【第4学年】B 図形 (5) 角の大きさ ア知識・技能 (ア) 角の大きさを回転角の大きさとして捉えること。イ思考・判断・表現 (ア) 図形の角の大きさに着目し、角の大きさを柔軟に表現したり、図形の考察に生かしたりすること。

- 本設問の正答率は、40.1%である。かこうとした正三角形をかくために直す命令を86.9(全国85.0)%が正しく選ぶことができた。しかし、回転する方向を言葉で示したり、回転する角の大きさを捉えて数字や言葉を用いて記述したりすることに課題がみられる。

《学習指導にあたって》

正三角形の意味や性質を基に、正三角形のプログラムを作成し、コンピュータを用いて作図をすることが考えられる。その際に、回転する角の大きさを見つけるために試行錯誤した例や作図できなかった例を取り上げ、どのような試行錯誤があったのか共有し、なぜ作図できなかったのか理由を考えさせることも考えられる。そのことを通して、回転する向き、回転する角の大きさや辺の長さに着目し、図形の意味や性質を基に作図の仕方を考えることができるようにすることが大切である。

示されたプログラムでかくことができる図形を選ぶ

【第4学年】B 図形 (1) 平面図形 ア知識・技能 (イ) 平行四辺形、ひし形、台形について知ること。

イ思考・判断・表現 (ア) 図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、構成の仕方を考察し図形の性質を見いだすとともに、その性質を基に既習の図形を捉え直すこと。

- 本設問の正答率は、49.5%である。二等辺三角形との判断が12.5%、ひし形が17.2%、正六角形11.5%であった。示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断することに課題がある。各図形の意味や性質の理解についても課題があると考えられる。

《学習指導にあたって》

示された作図の手順から、どのような図形ができるかを判断する活動が考えられる。その際に、作図の手順を基に、辺の長さや角の大きさから図形を予想したり、実際に作図したりして、図形の性質を確かめることができるようにすることが大切である。コンパスや三角定規を用いる作図の他に、コンピュータを用いての作図も考えられる。いずれの場合も、手順を考えるとこの点は同じであるため、用いる道具の特徴を踏まえて作図の手順を考える事が大切である。

② 小学校理科

【学習指導要領の領域別集計結果】

区 分	正答率 (%)		
	稚内市	全国	全国との比較
「エネルギー」を柱とする領域	★★	51.6	▼
「粒子」を柱とする領域	★★★	60.4	△
「生命」を柱とする領域	★★★	75.0	▼
「地球」を柱とする領域	★★★	64.6	▼

【設問別集計結果】

設問 番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率 (%)		
			稚内市	全国	全国との比較
1 (1)	見いだされた問題を基に、観察の記録が誰のものであるかを選ぶ	問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる	★★★★	92.9	△
1 (2)	自分の観察の記録と新たに追加された他者の観察の記録を基に、問題に対するまとめを見直して書く	自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できる	★★★	67.5	▼
1 (3)	昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫であるかどうかを説明するための視点を選ぶ	昆虫の体のつくりを理解している	★★★	73.1	▼
1 (4)	資料を基に、カブトムシは育ち方と主な食べ物の特徴から二次元の表のどこに当てはまるのかを選ぶ	提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる	★★★	76.1	△
1 (5)	育ち方と主な食べ物の二次元の表から気付いたことを基に、昆虫の食べ物に関する問題を見いだして選ぶ	観察などで得た結果を、他者の気づきの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる	★★★	65.5	▼
2 (1)	一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く	メスシリンダーという器具を理解している	★★★★	67.8	△△
2 (2)	水50mLをはかり取る際に、メスシリンダーに入れた水の量を正しく読み取り、さらにスポイトで加える水の量を選ぶ	メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けている	★★★	70.0	△△

設問 番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率 (%)		
			稚内市	全国	全国との比較
2 (3)	水溶液の凍り方について、実験の結果を基に、それぞれの水溶液が凍る温度を見だし、問題に対するまとめを選ぶ	自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができる	★★	62.8	▼▼
2 (4)	凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見いだされた問題を書く	自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる	★	39.3	▼
3 (1)	光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ	日光は直進することを理解している	★	27.8	△△
3 (2)	実験の結果から、問題の解決に必要な情報が取り出しやすく整理された記録を選ぶ	問題に対するまとめを導きだすことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録している	★★★★	74.4	▼▼
3 (3)	鏡ではね返した日光の位置が変化していることを基に、継続して同じ条件で実験を行うために、実験の方法を見直し、新たに追加した手順を書く	自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつことができる	★★★★	68.9	▼
3 (4)	問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く	実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる	★	35.1	▼▼
4 (1)	冬の天気と気温の変化を基に、問題に対するまとめを選ぶ	観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる	★★★★★	82.3	△
4 (2)	夜の気温の変化について、他者の予想を基に、記録の結果を表したグラフを見通して選ぶ	予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる	★★★★	64.5	△
4 (3)	結果からいえることは、提示された結果のどこを分析したものなのかを選ぶ	観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる	★	45.5	▼
4 (4)	鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変化したものかを書く	水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している	★★	62.0	▼▼

【下位層の割合】

区 分	正答数	全国の下位約 25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合 (%)		
		稚内市	全国	全国との比較
平成 30 年度	16 問中 7 問以下	41.5	26.3	15.2
令和 4 年度	16 問中 8 問以下	23.9	27.2	▲3.3

○前回（平成 30 年度）は下位層が 40%を超えていたが、今回は 23.9%で全国より割合が低くなっており、全体的な学力の底上げが見られる。

【全国平均を超えた設問の趣旨】

- 見いだされた問題を基に、観察の記録が誰のものであるかを選ぶ
- 資料を基に、カブトムシは育ち方と主な食べ物の特徴から二次元の表のどこに当てはまるかを選ぶ
- 一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く
- 水 50ml をはかり取る際に、メスシリンダーに入れた水の量を正しく読み取り、さらにスポイトで加える水の量を選ぶ
- 光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ
- 冬の天気と気温の変化を基に、問題に対するまとめを選ぶ
- 夜の気温の変化について、他者の予想を基に、記録の結果を表したグラフを見通して選ぶ

【課題と改善点】

水溶液の凍り方について、実験の結果を基に、それぞれの水溶液が凍る温度を見だし、問題に対するまとめを選ぶ

- ☆ 自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができるかどうかをみる設問。
- 問題に対するまとめを検討して、改善し、その考えをより科学的なものに変容させるなど、自分の考えをもつことに課題がある。

《学習指導に当たって》

観察、実験の結果を基にして、予想について検討して、改善し、より妥当な考えをつくりだすことができるようにする場面を設定することが大切。

実験の結果から、問題の解決に必要な情報が取り出しやすく整理された記録を選ぶ

- ☆ 問題に対するまとめを導きだすことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録しているかどうかをみる設問。
- 実験の結果を記録せずに、結果から分かることや感想を記録している選択肢を選んでいることから、問題を解決するために、観察、実験などの過程や得られた結果を適切に記録することに課題がある。

《学習指導に当たって》

観察、実験などの過程やそこから得られた結果を適切に記録するなど、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける事が出来るようにする。問題を的確に把握し、何を記録する必要があるか検討する場面を設定することが大切。

問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く

☆ 実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できるかどうかをみる設問。

- 色や温度に対する記述はあるが、時間や数値の記述がないことから、実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述することに課題がある。

《学習指導に当たって》

観察、実験などで得た結果について分析して、解釈し、より妥当な考えをつくりだすことができるようにする。結果の具体的な数値や、それを分析した内容などを根拠として表現する場面を設定することが大切。

鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変化したものかを書く

☆ 水是水蒸気になって空気中に含まれていることを理解しているかどうかをみる設問。

- 既習の内容や生活経験を基に、気体は想起しているが、水是水蒸気になって空気中に含まれていることを理解することに課題がある。

《学習指導に当たって》

知識をより深く理解できるようにするためには、主体的な問題解決を通して知識を習得し、学習の成果を日常生活との関わりの中で捉え直すことができるようにする。問題解決を通して習得した知識を活用して、学習の成果を日常生活との関わりの中で捉え直す場面を設定することが大切。

③ 中学校国語

【学習指導要領の領域別集計結果】

区 分	正答率 (%)		
	稚内市	全国	全国との比較
話すこと・聞くこと	★★	63.0	▼
書くこと	★★★	63.9	▼
読むこと	★	46.5	▼▼
伝統的な言語文化と国語の特質	★★★	67.9	▼

【設問別集計結果】

設問 番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率 (%)		
			稚内市	全国	全国との比較
1一	スピーチの一部を呼びかけたり問いかけたりする表現に直す	聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する	★★★	74.7	△
1二	話の進め方のよさを具体的に説明したものとして適切なものを選択する	論理の展開などに注意して聞く	★★	65.1	▼▼
1三	スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く	自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す	★★	51.8	△
2一	意見文の下書きの一部について、文末の表現を直す意図として適切なものを選択する	助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う	★★★	82.3	▼▼
2二①	漢字を書く（のぞく）	文脈に即して漢字を正しく書く	★★★	82.1	▼▼
2二②	漢字を書く（よろこんで）		★★★	80.5	▼
2三	農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く	★	46.5	▼▼
3一	「陽炎みたいに揺らめきながら」に使われている表現の技法の名称を書き、同じ表現の技法が使われているものを選択する	表現の技法について理解する	★★	52.5	△
3二	「途方に暮れた」の意味として適切なものを選択する	事象や行為、心情を表す語句について理解する	★★★★★	84.0	▼
3三	話の展開に沿って「おれ」の行動や心情を並べ替える	場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える	★★★	62.0	△
3四	「おれ」は何を「なるほど」と思ったのかについて、話の展開を取り上げて書く	場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する	★★★	73.8	▼

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率 (%)		
			稚内市	全国	全国との比較
4一	行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する	行書の特徴を理解する	★	39.4	▼
4二	最初に書いた文字の漢字のバランスについて説明したものとして適切なものを選択する	漢字の行書の読みやすい書き方について理解する	★★★★	90.1	▼
4三	書き直した文字の「と」の書き方について説明したものとして適切なものを選択する	漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する	★★★	81.1	▼▼

【下位層の割合】

区 分		正答数	全国の下位約 25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合 (%)		
			稚内市	全国	全国との比較
平成 29 年度	A (知識)	32 問中 21 問以下	41.7	23.2	18.5
	B (活用)	9 問中 5 問以下	31.0	27.8	3.2
平成 30 年度	A (知識)	32 問中 21 問以下	31.8	23.2	8.6
	B (活用)	9 問中 3 問以下	27.2	17.5	9.7
平成 31 年度		10 問中 5 問以下	22.4	21.4	1.0
令和 2 年度		中 止	—	—	—
令和 3 年度		14 問中 7 問以下	28.3	27.5	0.8
令和 4 年度		14 問中 8 問以下	31.9	29.6	2.3

【全国平均を超えた設問の趣旨】

- 聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する
- 自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す
- 表現の技法について理解する
- 場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える

【課題と改善点】

話の進め方のよさを具体的に説明したものとして適切なものを選択する

【第2学年】思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと 構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成 共有 エ.論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。

- 本設問の正答率は、54.9%である。話し手が伝えようとしている内容と、その内容を分かりやすく伝えるために挙げた事例との関係を捉えることができず、話全体がどのようにまとめられようとしているのか、論理の展開などに注意して聞くことに課題がみられる。

《学習指導にあたって》

第2学年の「意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること」との関連を図った学習や他教科や特活の学習場面で、互いのスピーチを聞き合って質問や助言をする場面を設定するなど、自分が聞き取って理解したことを確かめたり共有したりする学習活動が考えられる。

意見文の下書きの一部について、文末の表現を直す意図として適切なものを選択する

【第2学年】知識及び技能 (1)言葉の特徴や使い方に関する事項 オ.単語の活用、助詞や助動詞など

の働き、文の成分の順序や照応などの文の構成について理解するとともに、話や文章の構成や展開について理解を深めること。

- 本設問の正答率は、74.4%である。助動詞「そうだ」の働きについて理解し、目的に応じて使うことに課題がみられる。前の文との関係を捉えた上で、伝え聞いた内容であることを明確に表現しようとしていることを捉えられていない。

《学習指導にあたって》

助詞は、単語と単語との関係を示したり、意味を添えたりする働きをもつ品詞であり、助動詞は、意味を付け加え叙述を助けたり判断を示したりする品詞である。生徒の実態によっては、助動詞を変えることでどのように意味やニュアンスに違いがでるのか、自分が伝えたい微妙なニュアンスを相手によりよく伝えるにはどのような助詞や助動詞をつかうのが適切なのかなど、取り立てての指導も必要である。

農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きに

スマート農業の効果を書き加える

【第1学年】知識及び技能 (2) 情報の扱い方 情報の整理 イ.比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うこと。

思考力、判断力、表現力等 B 書くこと 考えの形成、記述 ウ.根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。

- 本設問の正答率は、40.0%である。自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかをみるのが設問の趣旨であり、根拠を明確にする際に、資料から必要な情報を引用して意見文の一部を書くことが求められていた。44.1%の生徒が、引用する部分をかぎかっこ「」でくくって書くという条件を満たして解答することができず、適切な引用の仕方の理解について課題がみられた。

《学習指導にあたって》

第1学年の「本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動」等との連携を図り、資料から必要な部分を引用して自分の考えを伝える文章を書き、読み合う活動が考えられる。また、意見文を書く学習に先立ち、引用するときはかぎかっこでくくることが、元の文章を変えず、そのまま正確に抜き出すことなど、適切な引用の仕方について指導することも、生徒の実態によっては必要である。

書き直した文字の「と」の書き方について説明したものとして適切なものを選択する

【第2学年】知識及び技能 (3) 我が国の言語文化に関する事項 書写 ウ(ア)漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。

- 本設問の正答率は、73.8%である。漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解することに課題がみられる。楷書から行書に書き直した文字の「と」が、「線が連続するように意識した書き方」になっていることを捉えられていない。行書の特徴を理解できていることを求める設問の正答率が37.4%であったことから、行書の特徴の理解が十分でないことが要因の一つと考えられる。

《学習指導にあたって》

これまで学習してきた楷書と仮名の調和した書き方を確認し、行書で書く場合はどのような調和がとれるのかを考えなどの学習活動が考えられる。その際に、行書特有の筆脈の連続や運筆のリズムを理解できるように、毛筆を活用することが有効である。

④ 中学校数学

【学習指導要領の領域別集計結果】

区 分	正答率 (%)		
	稚内市	全国	全国との比較
数と式	★	57.4	▼▼
図形	★	43.6	▼▼
関数	★	43.6	▼▼
データの活用	★★	57.1	▼▼

【設問別集計結果】

設問 番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率 (%)		
			稚内市	全国	全国との比較
1	42を素因数分解する	自然数を素数の積で表すことができる	★	52.2	▼▼
2	連立二元一次方程式 $\begin{cases} 2x+y=1 \\ y=x+4 \end{cases}$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	★★★★	74.5	▼
3	ある予想がいつでも成り立つかどうかを示すことについて、正しく述べたものを選ぶ	反例の意味を理解している	★	44.9	▼▼
4	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ	一次関数の変化の割合の意味を理解している	★	37.9	▼
5	容器のふたを投げたときに下向きになる確率を選ぶ	多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している	★★★★	83.3	▼▼
6 (1)	同じ偶数の和である $2n+2n=4n$ について、 n が9のときどのような計算を表しているかを書く	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	★★★★	73.8	▼▼
6 (2)	差が4である2つの偶数の和が、4の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる	★	48.7	▼▼
6 (3)	ある偶数との和が4の倍数になる数について、予想した事柄を表現する	結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる	★	37.6	▼
7 (1)	コマ回し大会で使用するコマをヒストグラムの特徴を基に選び、選んだ理由を説明する	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	★	44.0	▼
7 (2)	箱ひげ図の箱が示す区間に含まれているデータの個数と散らばりの程度について、正しく述べたものを選ぶ	箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる	★	44.1	▼▼

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率 (%)		
			稚内市	全国	全国との比較
8 (1)	与えられたグラフにおいて、点Eの座標を書く	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる	★	54.6	▼▼
8 (2)	目標の300kgを達成するまでの日数を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	★	38.4	▼▼
9 (1)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している	★★★	73.2	▼▼
9 (2)	$\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和が 30° になる理由を示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になることの説明を完成する	筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる	★	35.0	▼▼

【下位層の割合】

区分		正答数	全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合 (%)		
			稚内市	全国	全国との比較
平成29年度	A (知識)	36問中17問以下	33.9	25.2	8.7
	B (活用)	15問中4問以下	32.9	22.5	10.4
平成30年度	A (知識)	36問中17問以下	34.6	23.3	11.3
	B (活用)	14問中3問以下	32.3	22.8	9.5
平成31年度		16問中5問以下	27.8	20.5	7.3
令和2年度		中止	—	—	—
令和3年度		16問中6問以下	36.0	25.1	10.9
令和4年度		14問中4問以下	36.0	26.0	10.0

【全国平均を超えた設問】

なし

【課題と改善点】

42を素因数分解する

【第1学年】A 数と式 (1) 正の数と負の数 ア.知識・技能 (ア) 正の数と負の数の必要性和意味の理解 (イ) 正と負の数の四則計算 (ウ) 具体的な場面で正・負の数を用いて表したり、処理したりすること。
イ.思考・判断・表現 (ア) 算数で学習した四則計算と関連付けて、正の数と負の数の四則計算の方法を考察し表現すること (イ) 正の数と負の数を具体的場面で活用すること。

- 本設問の正答率は、24.4%である。解答類型に以外の解答が57.4%、無回答が18.3%であることから、素因数分解することの意味を理解することや素数の積で表すことに課題があると考えられる。

《学習指導にあたって》

小学校で学んだ約数や倍数の性質、素数の意味について捉え直す場面が必要であると考えられる。自然数をその約数の積に表す活動を通して、表された積の中に素数の積があることを調べる活動が考えられる。その際、小学校で学んだ約数・倍数や、素数の意味を確認することが大切である。振り返り際には、自然数を約数の積に表す場合には多様な式が考えられるが、

素数の積の場合にはその表現は一通りしかないことを具体的に知ることができるようにすることが重要である。

ある予想がいつでも成り立つかどうかを示すことについて、正しく述べたものを選ぶ

【第2学年】B図形 (2) 図形の合同 ア.知識・技能(イ)証明の必要性と意味及びその方法について理解すること。

- 本設問の正答率は、38.6%である。イと解答した生徒が30.5%いたが、平行四辺形ABCDが1つかけたことから、予想がいつでも成り立つと考え、点A、B、C、Dの位置を変えて別な平行四辺形を見つけることができれば、予想はいつでも成り立つと捉えたと考えられる。反例の意味の理解に課題があると考えられる。

《学習指導にあたって》

反例の意味を十分に理解できるよう、ある予想がいつでも成り立つかを考察する場面では、命題や事柄が成り立つことを説明するだけでなく、常に成り立つとは限らないことも説明できるようにすることが大切である。反例は、命題や事柄が常に成り立つとは限らないことを証明する際に必要であるが、そのためには反例を一つ上げればよいことや、反例は命題の仮定を満たしているが、結論を満たしていない例であることが理解できるように指導することが大切である。

容器のふたを投げたときに下向きになる確率を選ぶ

【第1学年】D データの活用 (2)不確定な事象の起こりやすさ ア知識及び技能

(ア)多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性と意味を理解すること。

- 本設問の正答率は、75.1%である。多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味の理解に課題がみられる。上向きになる確率と下向きになる確率が等しいと考えた生徒がいると考えられる。

《学習指導にあたって》

多数回の試行における結果から得られる相対度数は、一定の値に近づいていくことを実感を伴って理解できるようにすることが重要である。

本問のようにある容器のふたや、コインを多数回投げて、ふたが下向きになる回数やコインが表向きになる相対度数を調べる活動が考えられる。その上で、試行回数が多くなるにつれて一定の値に近づくことを実感を伴って理解させることが大切である。また、試行回数と相対度数の関係を表やグラフにまとめることが大切である。まとめる際にコンピュータを活用することで、表に整理し、グラフに表すことも容易にできる。

また、多数回の試行の結果を元に確定な事象について考察する際に、相対度数を確率とみなして用いることができるように指導することが大切である。

同じ偶数の和である $2n+2n=4n$ について、 n が9のときどのような計算を表しているかを書く

【第2学年】A 数と式 (1)文字を用いた式 ア知識及び技能 (イ)具体的な事象の中の数量の関係を文字を用いた式で表したり、式の意味を読み取ったりすること。

- 本設問の正答率は、68.5%である。問題場面における考察の対象を明確に捉えることに課題がみられる。

《学習指導にあたって》

本設問で、同じ2つの偶数の和が4の倍数になることの説明をふり返り、具体的な数を用い

て確かめる状況を設定しているように、予想したことが成り立つことの説明をふり返し、文字を用いた式と具体的な数を用いた式とを相互に関連付けながら、文字を用いた式がどのような事柄を表しているのかを理解できるように指導することが大切である。

本問を使って授業を行う際には、説明1をふり返し、文字を用いた式 $2n + 2n = 4n$ を取り上げ、 $n = 9$ を代入した式「 $2 \times 9 + 2 \times 9 = 4 \times 9$ 」や「 $18 + 18 = 36$ 」と対比させることで、 $2n + 2n$ が同じ偶数の和を表していることや、 $4n$ が4の倍数になることを理解できるようにすることが大切である。

また、 $n = 4$ や $n = 5$ を代入した場合など、いくつか具体的な数を用いて確かめさせることで、確実に理解させることが大切である。

差が4である2つの偶数の和が、4の倍数になることの説明を完成する

【第2学年】A 数と式 (1)文字を用いた式 イ思考・判断・表現 (イ)文字を用いた式を具体的な場面で活用すること。

- 本設問の正答率は、39.1%である。目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することに課題がみられる。

《学習指導にあたって》

本問の「差が4である2つの偶数の和が、4の倍数になる」が成り立つことを説明するために、差が4である2つの偶数の和を表した式が4の倍数 $\Rightarrow 4 \times (\text{整数})$ であるという見通しをもって、式を変形できるようにすることが大切である。その際、 $2n + (2n + 4)$ の式を計算し、 $4n + 4$ でとどまっているものを取り上げ、どのように変形すると $4 \times (\text{整数})$ の形の式に表すことができるか、説明を洗練させていく活動を取り入れることも考えられる。

また、差が4である2つの偶数について文字を用いて式に表す際には、 n を自然数としたとき、一方は $2n$ で表すことができるが、もう一方の偶数はどのように表すことができるのか、4の倍数はどのように表現するかなど話し合ったり、文字を用いた式と具体的な数を相互に関連付けながら理解させたりするなど丁寧に指導することが大切である。

与えられたグラフにおいて、点Eの座標を書く

【第1学年】C 関数 (1)比例、反比例 ア知識及び技能 (ウ)座標の意味を理解すること。

イ思考・判断・表現 (イ)比例・反比例を用いて、具体的な事象を捉え考察し表現すること。

- 本設問の正答率は、46.7%である。与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることに課題がみられる。

《学習指導にあたって》

表やグラフと具体的な事象を対応させ、グラフ上の点が具体的な事象では何を表しているのかを捉える活動を取り入れ、与えられた表やグラフを関連付けて、必要な情報を適切に読み取ることができるように指導することが大切である。

目標の300kgを達成するまでの日数を求める方法を説明する

【第1学年】C 関数 (1)比例、反比例 イ思考・判断・表現 (イ)比例・反比例を用いて、具体的な事象を捉え考察し表現すること。

- 本設問の正答率は、26.9%である。事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がみられる。

《学習指導にあたって》

問題解決のために数学を活用する方法を考える際に、問題解決の方法に焦点を当て、表、式、グラフなどの「用いるもの」と、それらを解決するためにどう用いたかといったその「用い方」について考え、説明できるように指導することが大切である。その際に、「用いるもの」と「用い方」の両方について、的確に説明できるように指導することが大切である。

なお、「用いるもの」あるいは「用い方」の一方のみの説明にとどまっているものを取り上げ吟味することで、「用いるもの」と「用い方」の両方必要であることの理解を深めたり、不十分な表現を取り上げて吟味し、より洗練された表現に高めていく工夫が考えられる。

証明で用いられている三角形の合同条件を書く

【第2学年】B 図形 (2)図形の合同 ア知識及び技能 (ア)平面図形の合同及び三角形の合同条件について理解すること。

- 本設問の正答率は、58.9%である。証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解することに課題がみられる。

《学習指導にあたって》

証明の根拠として用いられる三角形の合同条件を捉え直す場面が必要である。その上で、照明をよみ、結論を示すための過程や図形の性質がどのように用いられているかを確認する場面を設定し、照明の根拠として用いられている三角形の合同条件を指摘できるように指導することが大切である。

本設問では、「2組の辺とその間の角」という合同条件を指摘できるか求められたが、「3組の辺」や「1組の辺とその両端の角」という条件を用いて合同を証明する問題も扱い、合同条件について十分に理解できるようにすることが大切である。その際に、その合同条件を成り立たせる辺や角の関係を図と対応させて捉える活動を取り入れるなどの工夫が必要である。

∠ABEと∠CBFの和が30°になる理由を示し、∠EBFの大きさがいつでも60°になることの説明を完成する

【第2学年】B 図形 (2)図形の合同 イ思考・判断・表現 (イ)三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用すること。

- 本設問の正答率は、僅か7.6%である。筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することに課題がみられる。74.1%が正答の条件を1つも満たしていないか、無解答である。

《学習指導にあたって》

本問における、長方形ABCDの辺の長さを変えた図形においては、線分EB、BFが長くなったり短くなったりしても、 $\triangle AEB \equiv \triangle BCF$ が成り立ち、「∠EBFの大きさは60°になる」ということを生徒自身が見だし、表現できるようにすることで大切である。その際、長方形の大きさや容易に変えられるコンピュータを活用するのは効果的である。

③ 中学校理科

【学習指導要領の領域別集計結果】

区 分	正答率 (%)		
	稚内市	全国	全国との比較
「エネルギー」を柱とする領域	★	41.9	▼
「粒子」を柱とする領域	★	50.9	▼
「生命」を柱とする領域	★★	57.9	▼▼
「地球」を柱とする領域	★	44.3	▼

【設問別集計結果】

設問 番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率 (%)		
			稚内市	全国	全国との比較
1 (1)	日常生活の中で、物体が静電気を帯びる現象を選択する	日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	★	44.2	△
1 (2)	タッチパネルの反応に水が関係しているかを調べるために、変える条件と変えない条件を適切に設定した実験操作の組合せを選択する	モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できるかどうかをみる	★★★★	78.5	▼
2 (1)	観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を空気の柱の長さで説明する際、適切な長さの変化を選択する	観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を考える学習場面において、観測地の標高を空間的に捉え、気圧の概念を空気の柱で説明できるか問うことで、気圧に関する知識及び技能を身に付けているかどうかをみる	★★	54.2	▼
2 (2)	気圧、気温、湿度の変化をグラフから読み取り、雲の種類の変化と関連付けて、適切な天気図を選択する	継続的に記録した空の様子を撮影した画像と百葉箱の観測データを天気図に関連付けて、天気の変化を分析して解釈できるかどうかをみる	★	40.8	▼▼
2 (3)	上空の気象現象を地上の観測データを用いて推論した考察の妥当性について判断する	飛行機雲の残り方を科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善できるかどうかをみる	★	28.5	▼
3 (1)	分子のモデルで表した図を基に、水素の燃焼を化学反応式で表す	化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる	★★★★	80.1	▼▼

設問 番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率 (%)		
			稚内市	全国	全国との比較
3 (2)	水素を燃料として使うしくみの例の水の質量の変化について、適切なものを選択する	水を電気分解して発生させた水素を燃料として使う仕組みを探究する学習場面において、粒子の保存性の視点から化学変化に関わる水の質量が変化しないことを、分析して解釈できるかどうかをみる	★★	60.2	▼
3 (3)	水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとを指摘する	化学変化に関する知識及び技能と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもととして必要なものを分析して解釈できるかどうかをみる	★	24.8	△
4 (1)	ダイオウグソクムシとダンゴムシのあしの様子が異なることについて、生活場所や移動の仕方と関連付け、その理由を説明する	節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈できるかどうかをみる	★★★★	74.5	▼▼
4 (2)	脊椎動物には骨格のつくりに通点があることから、カラスの関節Aに対応するヒトとカエルのあしの関節を選択する	複数の脊椎動物の外部形態の考察を行う場面において、あしの骨格について共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、共通点と相違点を分析して解釈できるかどうかをみる	★★	65.6	▼▼
5 (1)	おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する	力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できるかどうかをみる	★	15.3	▼
5 (2)	「ばねが縮む長さは、加える力の大きさに比例するか」という課題に正対した考察を行うために、適切に処理されたグラフを選択する	課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能が身に付いているかどうかをみる	★	45.0	▼▼
5 (3)	考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する	考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できるかどうかをみる	★	43.3	▼▼
6 (1)	玄武岩の露頭で化石の観察が可能か判断し、その理由を選択する	玄武岩の露頭で化石が観察できるかを問うことで、岩石に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	★	48.0	▼

設問 番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率 (%)		
			稚内市	全国	全国との比較
6 (2)	陸上のB地点で古生代のサンゴの化石が観察されることについて、垂直方向の変動だけで推論した他者の考察を検討し、水平方向の変動も踏まえた推論が必要であることを指摘する	過去の大地の変動について、垂直方向の移動だけで推論した他者の考察を、水平方向の移動も踏まえて、検討して改善できるかどうかをみる	★★	60.3	▼
6 (3)	東西方向と南北方向の地層の断面である露頭のスケッチから、地層が傾いている向きを選択する	地層の広がり方について、時間的・空間的な見方を働かせながら、ルートマップと露頭のスケッチを関連付け、地層の傾きを分析して解釈できるかどうかをみる	★	34.2	▼
7 (1)	液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を選択する	液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な事象を問うことで、状態変化に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	★	35.9	△△
7 (2)	吸湿発熱繊維に水蒸気を多く含む空気を通した一つの実験だけで行った考察について、課題に正対しているかどうかを検討し、必要な実験を指摘する	実験の結果が考察の根拠として十分かどうか検討し、必要な実験を指摘して、実験の計画を改善できるかどうかをみる	★★	53.4	▼
8 (1)	アリが視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を基に、課題に正対した考察を記述する	アリの行列のつくり方を探究する場面において、視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができるかどうかをみる	★★	55.2	▼▼
8 (2)	予想や仮説と異なる実験の結果が出る場合、その意味することや考えられる可能性について考え、実験の操作や条件制御の不備の可能性を指摘する	予想や仮説と異なる結果が出る場合について、結果の意味を考え、観察、実験の操作や条件の制御などの探究の方法について検討し、探究の過程の見通しをもつことができるかどうかをみる	★★	55.1	▼
8 (3)	生物Xが昆虫類かどうかアリと比較しながら、観点と基準を明確にして判断する	未知の節足動物とアリの外部形態を比較して共通点と相違点を捉え、分類の観点や基準を基に分析して解釈できるかどうかをみる	★	39.2	▼▼

【下位層の割合】

区 分	正答数	全国の下位約 25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合(%)		
		稚内市	全国	全国との比較
平成 30 年度	16 問中 7 問以下	41.5	26.3	15.2
令和 4 年度	21 問中 7 問以下	33.7	27.3	6.4

○前回（平成 30 年度）は下位層が 40%を超えていたが、今回は 33.7%で、全体的な学力の底上げが見られる。

【全国平均を超えた設問の趣旨】

- 日常生活の中で、物体が静電気を帯びる現象を選択する
- 水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとを指摘する
- 液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を選択する

【課題と改善点】

分子のモデルで表した図を基に、水素の燃焼を化学反応式で表す

☆ 化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる設問。

- 物質を化学式で表すことはできているが、水素の燃焼を化学反応式で表すことに課題がある。

《学習指導に当たって》

原子や分子のモデルを基に、化学変化を化学反応式で表すことができるようにする。身近に見られる化学変化を原子や分子のモデルで微視的に現象を捉えることで、化学変化に関する原子や分子の種類や数に関することを可視化して理解し、粒子のモデルで表す有用感を実感できるようにすることが大切。

ダイオウグソクムシとダンゴムシのあしの様子が異なることについて、生活場所や移動の仕方と関連付け、その理由を説明する

☆ 節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈できるかどうかをみる設問。

- レポート 1 から読み取った事実だけを記述していることから、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈することに課題がある。

《学習指導に当たって》

動物の外部形態を生活場所や移動の仕方などと関連付けて、分析して解釈できるようにする。いろいろな動物の外部形態を観察して見いだした特徴を、共通点と相違点に着目して生活場所や移動の仕方などと関連付けて考察し、表現する学習場面を設定することが大切。

脊椎動物には骨格のつくり共通点があることから、カラスの関節 A に対応するヒトとカエルのあしの関節を選択する

☆ 複数の脊椎動物の外部形態の考察を行う場合において、あしの骨格について共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、共通点と相違点を分析して解釈できるかどうかをみる設問。

- カラスの関節 A をヒトとカエルのあし的一方、あるいは両方の関節に相当させていないことから、脊椎動物の体のつくりと働きの共通点について、分析して解釈することに課題がある。

《学習指導に当たって》

身近な動物の外部形態の観察を行い、その観察記録などに基づいて、主として共通性と多様性の視点で捉え、脊椎動物の体のつくりを比較し、分析して解釈できるようにする。いろいろな動物を脊椎動物と無脊椎動物に分類でき、更に脊椎動物については、五つの仲間に分類できることを見いだして理解できるようにする学習場面を設定することが大切。

「ばねが縮む長さは、加える力の大きさに比例するか」という課題に正対した考察を行うために、適切に処理されたグラフを選択する

☆ 課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能が身に付いているかどうかをみる設問。

- 実験の結果の表から縦軸に縮む長さを設定し、更に、データをグラフ上に表した点を適切に処理したグラフを指摘していないので、課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能に課題がある。

《学習指導に当たって》

ばねを押し力の大きさとばねが縮む長さの関係を科学的に探究する上で、課題に正対した考察を行うために適切なグラフを作成できるようにする。課題に立ち返りながら考察を行うために、グラフの横軸、縦軸が何に当たるかを考え、どのようなグラフを作成すればよいかを検討する学習場面を設定することが大切。

生物Xが昆虫類かどうかアリと比較しながら、観点と基準を明確にして判断する

☆ 未知の節足動物とアリの外部形態を比較して共通点と相違点を捉え、分類の観点や基準を基に分析して解釈できるかどうかをみる設問。

- 昆虫類の分類の観点や基準を理解しておらず、生物Xの外部形態の特徴を捉えることができていないため、分析して解釈することに課題がある。

《学習指導に当たって》

身近な動物の外部形態の観察を行い、共通点や相違点を見だし、それらを基に動物を分類できるようにする。いろいろな動物の外部形態を観察し、共通点や相違点に基づいて分類表や検索表などを作り、その表を用いて、未知の動物がどの仲間に分類できるかについて、話し合うなどの学習場面を設定することが大切。

(2) 学習状況調査(質問紙調査)

① 小学校児童質問紙調査

○「高い傾向」を示した質問項目

設問番号	質問事項	稚内市	全国	差
(13)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	98.4	96.8	1.6
(36)	学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか	97.4	94.4	3.0
(18)	友達と協力するのは楽しいと思いますか	95.8	94.0	1.8
(15)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	94.7	95.1	▲ 0.4
(56)	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	94.3	93.3	1.0
(54)	算数の勉強は大切だと思いますか	94.2	94.2	0.0
(50)	国語の勉強は大切だと思いますか	93.7	93.3	0.4
(1)	朝食を毎日食べていますか	93.2	94.4	▲ 1.2
(52)	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	92.6	91.8	0.8
(3)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	91.6	90.4	1.2
(63)	理科の授業の内容はよく分かりますか	91.0	88.5	2.5
(8)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	88.4	87.1	1.3
(68)	理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか	88.4	84.9	3.5
(12)	人が困っているときは、進んで助けていますか	87.9	88.9	▲ 1.0
(60)	算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	86.8	85.7	1.1
(10)	自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか	85.8	87.2	▲ 1.4
(51)	国語の授業の内容はよく分かりますか	85.8	84.0	1.8
(48)	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	84.8	80.0	4.8
(67)	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか	84.2	78.0	6.2
(45)	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	84.2	72.7	11.5
(42)	5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	83.7	79.7	4.0
(2)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	83.2	81.5	1.7
(39)	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	82.1	77.3	4.8
(46)	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	82.1	73.5	8.6

設問番号	質問事項	稚内市	全国	差
(20)	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)	81.6	71.1	10.5
(62)	理科の勉強は大切だと思いますか	81.1	86.5	▲ 5.4
(55)	算数の授業の内容はよく分かりますか	80.6	81.2	▲ 0.6
(16)	学校に行くのは楽しいと思いますか	80.0	85.4	▲ 5.4

●「低い傾向」を示した質問項目

設問番号	質問事項	稚内市	全国	差
(14)	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	57.9	68.1	▲ 10.2
(64)	理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	56.9	67.9	▲ 11.0
(53)	算数の勉強は好きですか	54.2	62.5	▲ 8.3
(30)	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	49.4	51.3	▲ 1.9
(28)	地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか(習い事の先生は除く)	28.9	30.6	▲ 1.7
(66)	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか	17.9	26.6	▲ 8.7
(25)	新聞を読んでいますか	13.2	13.8	▲ 0.6

□その他

質問(21)：学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)

区分	3時間以上	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	30分以上、1時間より少ない	30分より少ない	全くしない
稚内市	0.0	8.9	43.7	35.8	10.5	1.1
全国	11.3	13.8	34.3	25.8	10.5	4.2

質問(23)：学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)

区分	2時間以上	1時間以上、2時間より少ない	30分以上、1時間より少ない	10分以上、30分より少ない	10分より少ない	全くしない
稚内市	6.3	11.6	13.7	18.4	17.9	32.1
全国	7.2	10.1	19.1	23.2	14.1	26.3

質問(24)：あなたの家には、およそどれくらい本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く）

区分	0～10冊	11～25冊	26～100冊	101～200冊	201～500冊	501冊以上
稚内市	13.2	20.0	33.7	17.9	10.0	5.3
全 国	11.6	18.9	34.1	19.2	11.6	4.5

質問(25)：新聞を読んでいますか

区分	ほぼ毎日読んでいる	週に1～3回程度読んでいる	月に1～3回程度読んでいる	ほとんど、又は、全く読まない
稚内市	3.2	10.0	18.9	67.4
全 国	4.8	9.0	13.1	73.0

質問(国 1)：今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか

区分	全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあった	書く問題は全く解答しなかった
稚内市	78.8	19.7	1.6
全 国	78.0	17.4	1.8

質問(算 1)：今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらについてどのように解答しましたか

区分	全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあった	書く問題は全く解答しなかった
稚内市	81.8	17.2	0.5
全 国	82.8	14.0	1.4

※「□その他」の質問は、回答に「その他」、「無回答」がある場合、割合の合計が100%とならないことがあります。

② 中学校生徒質問紙調査

○「高い傾向」を示した質問項目

設問番号	質問内容	稚内市	全国	差
(13)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.5	96.4	1.1
(15)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	94.5	95.0	▲ 0.5
(3)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	94.0	92.2	1.8
(50)	国語の勉強は大切だと思いますか	94.0	93.2	0.8
(18)	友達と協力するのは楽しいと思いますか	92.0	93.7	▲ 1.7
(36)	学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか	91.5	92.6	▲ 1.1
(1)	朝食を毎日食べていますか	91.0	91.9	▲ 0.9
(8)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	91.0	86.6	4.4
(52)	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	89.0	89.7	▲ 0.7
(10)	自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか	87.0	86.6	0.4
(12)	人が困っているときは、進んで助けていますか	87.0	88.4	▲ 1.4
(45)	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	86.5	72.1	14.4
(48)	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	85.5	85.5	0.0
(60)	数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	85.5	79.6	5.9
(46)	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	83.0	76.8	6.2
(54)	数学の勉強は大切だと思いますか	82.5	86.6	▲ 4.1
(58)	数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	82.5	75.2	7.3
(51)	国語の授業の内容はよく分かりますか	82.0	81.2	0.8
(39)	1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	81.5	79.2	2.3
(68)	理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか	80.0	78.9	1.1

●「低い傾向」を示した質問項目

設問番号	質問事項	稚内市	全国	差
(53)	数学の勉強は好きですか	59.0	58.1	0.9
(27)	自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありますか	57.0	55.0	2.0
(65)	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	55.5	61.5	▲ 6.0
(64)	理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	49.5	52.7	▲ 3.2

設問番号	質問内容	稚内市	全国	差
(30)	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	42.0	40.7	1.3
(57)	数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	41.0	47.3	▲ 6.3
(28)	地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか（習い事の先生は除く）	24.0	21.1	2.9
(66)	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いませんか	23.0	22.1	0.9

□その他

質問(21)：学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

区分	3時間以上	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	30分以上、1時間より少ない	30分より少ない	全くしない
稚内市	2.5	9.5	35.5	30.0	16.0	6.5
全国	9.9	25.3	34.3	17.0	8.5	4.9

質問(23)：学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

区分	2時間以上	1時間以上、2時間より少ない	30分以上、1時間より少ない	10分以上、30分より少ない	10分より少ない	全くしない
稚内市	8.0	4.0	15.0	16.0	12.5	44.5
全国	4.6	7.8	14.9	21.3	12.3	39.0

質問(24)：あなたの家には、およそどれくらい本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く）

区分	0～10冊	11～25冊	26～100冊	101～200冊	201～500冊	501冊以上
稚内市	15.0	14.5	31.0	20.5	17.5	1.0
全国	14.6	19.6	32.1	17.3	12.1	4.1

質問(25)：新聞を読んでいますか

区分	ほぼ毎日読んでいる	週に1～3回程度読んでいる	月に1～3回程度読んでいる	ほとんど、又は、全く読まない
稚内市	2.5	5.5	17.0	75.0
全国	3.0	6.4	11.5	79.0

質問(国1)：今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか

区分	全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあった	書く問題は全く解答しなかった
稚内市	80.0	17.4	2.6
全国	77.3	17.4	2.4

質問(数1): 今回の数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか

区分	全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあった	書く問題は全く解答しなかった
稚内市	57.4	38.6	3.6
全 国	53.4	41.3	3.7

※「□その他」の質問は、回答に「その他」、「無回答」がある場合、割合の合計が100%とならないことがあります。

(3) 質問紙調査票の項目と正答率との関係

① 小学校調査(抜粋)

質問番号	質問事項	平均正答率	
		肯定	否定
(1)	朝食を毎日食べていますか	53.2	48.0
(2)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	52.9	45.3
(3)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	51.6	39.7
(4)	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか	51.5	32.5
(20)	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	56.7	48.8
(26)	読書は好きですか	71.5	48.0
(44)	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	56.6	46.4

② 中学校調査(抜粋)

質問番号	質問事項	平均正答率	
		肯定	否定
(1)	朝食を毎日食べていますか	53.2	48.0
(2)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	52.9	45.3
(3)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	51.6	39.7
(4)	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか	51.5	32.5
(20)	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	56.7	48.8
(26)	読書は好きですか	57.3	42.6
(38)	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	56.6	46.4

- ☞ 規則正しい生活習慣は学力にも良い影響を与えています。
- ☞ 家庭での学習習慣づけが重要です。
- ☞ スマートフォンや携帯電話の使用ルールや約束ごとを守ることが大切です。

「規則正しい生活習慣の育成」、「家庭学習の習慣化」は、学校での指導に加え、各家庭との一層の連携・協力が必要です。

(4) 学校調査(質問紙調査)

① 小学校調査(抜粋)

設問番号	質問内容	肯定	
		稚内市	全国
(7)	調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	100.0	87.2
(8)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか	100.0	84.6
(9)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか	100.0	96.2
(10)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行いましたか	100.0	98.7
(17)	児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどにに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	100.0	94.2
(18)	指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	100.0	92.3
(19)	授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか	100.0	97.7
(20)	児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか	100.0	83.6
(28)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか	100.0	96.8
(30)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	100.0	88.0
(31)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	100.0	83.4
(32)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、教科等の指導に当たって、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか	100.0	82.6
(33)	調査対象学年の児童に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか	100.0	90.8
(34)	調査対象学年の児童に対して、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか	100.0	93.8
(35)	調査対象学年の児童に対して、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童が意思決定できるような指導を行っていますか	100.0	92.6
(36)	調査対象学年の児童に対して、特別の教科 道徳において、児童自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか	100.0	96.9
(37)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童のよい点や改善点等を積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしましたか	100.0	97.0
(37)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童のよい点や改善点等を積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしましたか	100.0	97.0

設問番号	質問内容	肯定	
		稚内市	全国
(38)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用等、組織的かつ計画的な取組をしましたか	100.0	84.1
(39)	調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行いましたか	100.0	94.4
(40)	調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行いましたか	100.0	95.4
(41)	調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行いましたか	100.0	92.7
(42)	調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり自分の考えを広げたりする授業を行いましたか	100.0	95.6
(46)	調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	100.0	84.3
(47)	調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行いましたか	100.0	92.4
(48)	調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫していましたか	100.0	97.1
(50)	調査対象学年の児童に対する理科の指導として、前年度までに、自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行いましたか	100.0	93.9
(51)	調査対象学年の児童に対する理科の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	100.0	94.2
(52)	調査対象学年の児童に対する理科の指導として、前年度までに、自ら考えた予想や仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行いましたか	100.0	93.8
(53)	調査対象学年の児童に対する理科の指導として、前年度までに、観察や実験の結果を整理し考察する指導を行いましたか	100.0	97.1
(57)	教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか	100.0	94.7
(77)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか	100.0	96.5
(78)	調査対象学年の児童の保護者に対して、前年度までに、児童の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか	100.0	92.4
(80)	令和3年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	100.0	95.9
(81)	全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか	100.0	91.7

設問番号	質問内容	肯定	
		稚内市	全国
(16)	指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか	91.0	94.8
(27)	調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができていると思いますか	91.0	90.7
(29)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか	91.0	89.8
(15-4)	I C Tを活用した校務の効率化を通じて、教職員等会議に関する事務は軽減しましたか	90.9	71.5
(15-5)	I C Tを活用した校務の効率化を通じて、教職員の書類作成等その他の事務は軽減しましたか	90.9	73.7
(23)	調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	90.9	87.2
(25)	調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか	90.9	83.8
(74)	保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営等の活動に参加していますか	90.9	94.6
(79)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かしましたか	90.9	89.7
(82)	令和3年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか（学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む）	90.9	86.2
(24)	調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか	90.9	75.1
(14)	I C Tを活用した校務の効率化（事務の軽減）に取り組んでいますか	81.9	95.0
(11)	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して、児童が相談したい時に相談できる体制となっていますか	81.8	88.4
(21)	個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか（オンラインでの参加を含む）	81.8	76.0
(26)	調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	81.8	80.9
(68)	学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象学年の児童に対する授業の中で、児童の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫等）を行いましたか	81.8	94.3
(71)	令和3年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有しましたか	81.8	44.5
(73)	教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか	81.8	82.0
(76)	(74)の質問にあるような、保護者や地域の人との協働による取組は、学校の教育水準の向上に効果がありましたか	81.8	93.7

② 中学校調査(抜粋)

設問番号	質問内容	肯定	
		稚内市	全国
(8)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか	100.0	98.5
(9)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか	100.0	94.3
(10)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行いましたか	100.0	98.1
(30)	ICTを活用した校務の効率化を通じて、教職員等会議に関する事務は軽減しましたか	100.0	67.7
(42)	調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができていると思いますか	100.0	96.0
(5)	調査対象学年の生徒に対して、学級生活をよりよくするために、学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか	100.0	93.3
(81)	調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行いましたか	100.0	97.5
(29)	調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりする授業を行いましたか	100.0	95.8
(23)	調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫していましたか	100.0	97.0
(24)	教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか	100.0	90.8
(26)	前年度までに、近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	100.0	61.1
(68)	前年度までに、近隣等の小学校と、授業研究を行うなど、合同で研修を行いましたか	100.0	58.0
(58)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えましたか	100.0	93.6
(65)	調査対象学年の生徒の保護者に対して、前年度までに、生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか	100.0	86.7
(75)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や生徒の学習改善に生かしましたか	100.0	86.9
(15-1)	令和3年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	100.0	92.7
(7)	調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	85.8	95.6

設問番号	質問内容	肯定	
		稚内市	全国
(27)	調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行いましたか	85.8	96.1
(17)	I C Tを活用した校務の効率化（事務の軽減）に取り組んでいますか	85.7	94.3
(31)	I C Tを活用した校務の効率化を通じて、教職員の書類作成等その他の事務は軽減しましたか	85.7	69.5
(32)	指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか	85.7	91.3
(33)	生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のP D C Aサイクルを確立していますか	85.7	93.3
(35)	授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか	85.7	92.7
(36)	生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか	85.7	78.6
(46)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業において、生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか	85.7	97.1
(52)	調査対象学年の生徒に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか	85.7	89.6
(77)	調査対象学年の生徒に対して、特別の教科 道徳において、生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか	85.7	97.7
(78)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、生徒のよい点や改善点等を積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしましたか	85.7	96.6
(80)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用等、組織的かつ計画的な取組をしましたか	85.7	91.6
(25)	調査対象学年の生徒に対する理科の指導として、前年度までに、自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行いましたか	85.7	94.4
(74)	調査対象学年の生徒に対する理科の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	85.7	96.8
(82)	調査対象学年の生徒に対する理科の指導として、前年度までに、観察や実験の結果を分析し解釈する指導を行いましたか	85.7	94.6
(71)	令和3年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校と成果や課題を共有しましたか	85.7	47.6
(69)	(72)の質問にあるような、保護者や地域の人との協働による取組は、学校の教育水準の向上に効果がありましたか	85.7	86.5

設問番号	質問内容	肯定	
		稚内市	全国
(15-2)	全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか	85.7	88.5
(15-3)	令和3年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか（学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む）	85.7	80.6

3 小中学校の状況及び学力向上策

※北海道教育委員会作成の「北海道版結果報告書」にも掲載されています。

■ 稚内市内の状況及び学力向上策 (小学校数：11校、児童数：193人) (中学校数：7校、生徒数：195人)

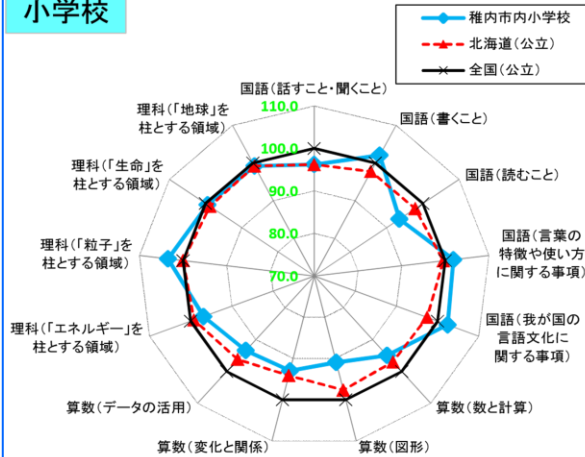
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの

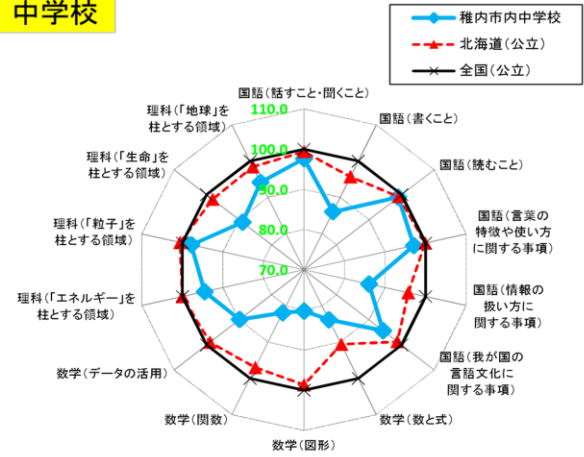
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

平均正答率	小学校	中学校
国語	65	66
算数・数学	59	43
理科	64	46

小学校



中学校



【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりする授業を行ったことにより、国語の勉強は好きと回答した児童の割合が全国を上回るとともに、「我が国の言語文化に関する事項」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の授業において、観察や実験の結果を整理し考察する指導を行ったことにより、理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えた回答した児童の割合が全国を上回るとともに、「粒子」を柱とする領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりする授業を行ったことにより、国語の勉強は好きと回答した生徒の割合が全国を上回り、「読むこと」の領域で全国の平均正答率に最も近付いたと考えられる。

近隣等の小学校と、授業研究を行うなど、合同で研修を行ったことにより、自分にあった教え方、教材、学習時間になっていると回答した生徒の割合が全国を上回った。

【稚内市の学力向上策】

- ◎ 学校教育指導員（退職教員等）による「放課後学力グングン塾」の実施
- ◎ ICT 機器活用の推進
- ◎ 学びの連続性を確保するための小中連携教育の推進



令和 4 年度
全国学力・学習状況調査結果
～概要と課題、そして改善に向けて～

令和5年1月作成

稚内市教育委員会学校教育課学校教育グループ

〒097-8686 稚内市中央3丁目13番15号